秋子さんと
いっしょ
For
Adult Only

水瀬家の人々――――――――
それぞれに、それぞれの想いがあった

叶わぬ想い――――

しかしそれは急速に、唐突に動き出す

秋うれしい
しみんと

★この物語はフィクションです。
前作のSWEETJAM、及び実在の人物・団体・事件
などには一切関係ありません。

カチャ
くー
くー
カチャ
カチャ
カチャ

名雪
早く食べないと
学校遅れるぞ
モグ
モグ
食べないん
だったらいいん
だけどな
うにゅ〜
食べるお〜

ザッ
サッ

プワ〜ン
パチ〜
パチ〜

大丈夫か？
祐一さん・・・
くー

あの…お願いがあるんですけど…

きいてくださる？

どっかで見たような展開ですね

ボソッ

はい？何を言ってるのかわかりませんわ

ま、俺にできる事なら

何でも――

あ…味見を…

僕の身体能力の限界を超えてます
ガッ
ジタバタッ
まあまあそう言わずに
祐一さんならどんな困難にも負けない力を持っていると信じていますわ
ひぃ〜〜
かいかぶり過ぎじゃないっスかね
つか、今回もこのパターンですか？
おほほだから何の事だかわかりませんわ
でも・・・本当に今回は自信作なんですよ
キュッ
ほら、私が先に毒見してあげますから・・・
な・・・
なんかエロいっスね

ポッ
ほーら なんともな〜い
いや、そんな ふてくされ なくても…
かわいい…
あー、じゃあ 秋子さんが 口移しして くれるんなら 味見しても いいっスよ
…な〜んて
……!!
…当ですか…
え?
口移しだったら 本当に食べて くれるんですね?
え? え?
ぱくっ

いいっ!?

ん!

いや…ちょっ…

秋子さんっ!?

ドッ

ん…

リキ

ブッ

う…

ちゅ…

ん…

う…

ちゅ

ちゅ…

トク

トク

トク
トク

あれ!?
はっ
なにしてるのかしらわたし・・・

ご・ごめんなさい祐一さん・・・!
わたしったら!
い・いやぁいいですよ
ビックリしたけど・・・

う・・・嬉かったし・・・
やっぱ!

あー
おぉ!!
こんな時間ーっ!!

何してるの祐一!
遅刻しちゃう!!
はいはい
お前が言うな

それじゃいってきまーっす
行ってきます秋子さん
行ってらっしゃい
ドタドタ
ダッ

クン・・・

・・・どうしたのかしら・・急に
すごく熱い・・・

ふ～…しかし…

トコ

ビックリしたぜ…

トコ

え？何が？

ビクッ

え？あ、いや何でもないよ

ふーん変なの

成り行きとは言え秋子さんとキスしたなんて…

あ、ネコだぁ～

でも何か、秋子さん様子おかしかったな…

それにしてもあのジャム食べてから

何がそんなに…

ねこ～ねこ～

頭がボーッとしてきた…

やばいな…だいぶ熱っぽくなってきたし…

ぺっしゃ！ぺっしゃ！

風邪でも引いたか？

う～ん…

再び水瀬家――

ふう…

ギシ…

変ね…

どうしたのかしら…

熱いわ…

さっきから凄く…

はあ

はあ

体が熱い…

はあ

はあ

熱いだけじゃない…

変な気分…

身体が…疼いて…

祐一…

祐一さん…

はぁ

はぁ

祐一さんの部屋…

はぁ

はぁ

祐一さんがいつも使ってるペン…

祐一さんが寝てるベッド…

ギシ…

祐一さんの…

匂い…

はぁ…

はぁ…

だめ…いけないわ…

クチュ…

…ん…

祐一さんの部屋でこんな事…

はぁ

はぁ

でも・・祐一さんの事想うと

う・・・

ぞくっ

ぞくっ

は・・っ

あ・・っ

ぞくっ

いてもたってもいられなくなる――

ぞくっ

ぞくっ

ぞくっ

ぞくっ

祐一さんとキスしちゃったから・・

こんなになってるの・・・？

はぁ

すごく濡れてるのがわかる恥しいくらい・・・

はぁ

はぁ

ひうっ
あっ！
やっ
あっ
だめっ
あっ
祐一さん…だめぇっ
私って…こんなエッチな女だったんだ…
ん…っ
やあぁんっ
あ…
く…いくぅ…!!

ガチャ

い…く…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ギィ…

！

あれ？秋子さん

何してんすか？俺のベッドで…

い…いえちょっと…掃除をしようと思って…

ドキドキ

祐一さんこそどうしたの？学校は？

いや…どうも熱っぽくて…

早退けして帰ってきたんです

そ…そう…それは心配だわ…

薬…いります？

ドキ

ドキ

薬？

そうですね…

ああ…祐一さん…
ドキ
ドキ

祐一さんが
こんなに近くに…
……
本物の
祐一さん…

だめ…もう
何もかも
爆発しそう…
ドキ
ドキ
ドキ
ギュ…
ブル
ブル

欲しいの…
ゆ…
薬、いただけますか
え？

祐一…
…さん…
熱っぽいのは本当ですが…
早退したのは
秋子さんに会いたかったからです…
抱きしめたかったからです

今の俺にとって
秋子さんの全て
秋子さんそのものが
特効薬です

祐一さん…私…でよければ…

ん…

ふん…

ん…

ん…っ

んんっ

ん…

ふ…

う…

あ…っ

ちゅるるる

う

ちゅぽっ

あ…秋子さん
すごい…

はあ

はあ

はあ

ん…っ

ぴちゃ…

ぴちゃ

ぴちゃ

ぴちゃ

んっ

くうっ…！

う…っ

ぴちゃ

ぴちゃ

あっ

ぴちゃ

ぴちゃ

ああっ

あっ

ぴちゃ

ぴちゃ

ぴちゃ

ぴちゃ

ん…
ん…
おちんちん こんなにしちゃって… エッチね 祐一さん…
エッチな汁 いっぱい
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ん…
おいしい…

ああ…
秋子さん…

エロいよ…
すごくエロい……

ピチャ

チュパッ

んっ

ペロ

チュパ

あっ

あっ

ピチャ

ピチャ

う…
あっ…っ

ああっ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ぐちゅ

ううっ

ぐちゅ

秋子…
さん…

ぐちゅ

ぐちゅ

ん…

ぐちゅ

う…
あっ
んっ

あ…秋子さん…
舌の動き…
すごい…っ

あっ

だめ…
出…っ

んっ

ん…

ふう…
う…

ん…
んんっ…

う…

ん…
濃いの
いっぱい出た…
はあ
トロ…
はあ…
秋子さん…
はあ
はあ
はあ
は…はい
あ…っ
はあ
はあ
プ
はあ
はあ

おっぱい…

ゆみ

ひゃっ

はぁ

たぷん

たぷ

すごい
ボリューム

やぁん

たぷ

たぷ

ぷるぷる

あたたかくて
やわらかい…

は…
恥かしい…

ムニュ

ムニュ

あっ
ぷにっ
やっ…
あっ
ぢへーん
ぢへ
あ…
やぁんっ
はぁ
はぁ
んっ
はぁ
あ…
ぎゅ
ぎゅ

ん…

すり

すり

すり

すり

すり

ぱあ

ぱあ

ドキ

ドキ

ピクッ

ぱんつ…

はいてない

！

なんで？

い…いや…！
それはその…

…あれ？

…したから

ゴッ

え？

こ……ここで……その……オナニー

もじ

してたから……

もじ

オナ……

……

は……ばかーー!!

そっか

やわいな、秘子さん

あー!バカにしてるでしょー!!

してない、してない

すごい嬉しいよ

しらない!

ちゅ

ちゅ

ひゃんっ

プルプルだー

あっ
やっ
あっ！
ピチャッ
ピチャッ
秋子さんの…
お尻の穴
秋子さんのま○こ
キレイだな…
全部…食べてしまいたい
はしっ
ぴちゃ
ぴちゃ
ひゃうんっ！
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
やっ
ぴちゃ
やあんっ
ぴちゃ

うっ
は…っ

祐一さんの舌が…

あっ

ビクッ

ビクン

私の中で動き回ってる…

お尻の中まで…

あっ！やあっ！

ピチャ

ピチャ

だめ…どんどん私えっちな女になっていく…

うっ

あっ

んんっ

あっ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

あっ

はみ
はみ
はみ
はみ
はみ
はみ

気が狂いそうなくらい…

身体が祐一さんを求めてる…

ゆ…祐一さん…

お願い…

はみ
はみ

もう…きて…

秋子のおま〇こに祐一さんのおちんちょうだい

ヌチュ…

こんな死ぬほど恥かしいセリフ言っちゃうなんて…

秋子さん…

そう…そのままきて…

い…いただきます…

ふふ…

クス…

残したりしたら承知しないから

う…

ズ

んっ

く…あ…

ズ…

ズプッ…

あひ…っ

入って…

ズプッ

ズプッ

あっ

いやぁっ

ズプッ

ズプッ

入ってくる…祐一さんのおちんちん入ってくるっ！

あっ
んくっ
やっ
あっ
ズプ
ズプ
ギシッ
ギシッ
32
秋子さん…
すごい
気持ち
いいよ…
あっ…はっ…
祐一さん…っ
ズッ
ズッ
チパッ
チパッ
たぷん
たぷ
秋子も
気持ちいいっ！
パパッ

あっ
ぐぃっ
んっ
ずぶっ
ずぶっ
んっ
ちゅくっ
ぐぃっ
いやぁんっ
やっ
あっ
ぐぃっ
はっ
ん
はっ
ひぎ…
んっ
ずぶっ
ずぶっ

あっ
はっ
ギュ…
ギッ
ギッ
あっ…んっ
祐一さん…すごいの…
祐一さんの
おちんちん
すごいのぉ…
グリッ
グリッ
グリッ

ガク
あっん
ドク
ドク
祐一さんの
いっぱいきてる
ビュルルル
祐一…
さん…っ
ドク…
どく…
ドク…
どく…
秋子さん…
祐一さん…
はあ
はあ
はあ

あ、そうだ。一つ言い忘れてました
はい？
え～…
ボリ
ボリ
？
36
あ…
愛しています秋子さん
その…色々あるでしょうが…
これからもずっと僕といっしょにいてください
了承♡

あとがき

皆さんこんにちは、垢抜けないぬる作家、みたらし侯成です。
この度はここまで読んでいただき誠にありがとうございます。

なんとなくSWEETJAMと似通った内容にはなってしまいましたが
今回の「秋子さんといっしょ」いかがだったでしょうか。
なんとなく秋子さんのイメージとは
かけ離れてきたような気もしますが…
とにかく「可愛い秋子さん」を
描きたい一心でここまで描きました。
今回も締め切りやばい状態でしたが
何とか無事描き終えてほっとしています。
今思えば当初描いてたネームをボツにして
今回の話描き始めたは良いものの
あれよあれよとページが増えていき
本文だけで40Pを越す勢い。
流石に締め切りに間に合わせられねぇと
何とか切り詰めて32Pに…
(それでも最初の予定では26Pだった)
ネームを終えて残り10日で
32Pペン入れから完成まで…
毎週末の楽しみだった草野球も
キャンセルして。･゜･(ノ凸`)･゜･。
まぁ自分にしてはよくやったもんだなと。
何事もやって見るもんですなヽ(´ー`)ノ

と、ここまで愚痴を書いてきましたが
まだまだ秋子さんを描き足りないような
気もします。
もっともっとえっちなかっこした
秋子さん描きた～い
ここにも描いてあるチアガール秋子とか
メイド秋子とかスクール水着秋子とか～。
まぁまぁ、それはまた、次回の講釈で…

ただし、次回は「To Heart2」から
ま～りゃん × さ～りゃん × たかりゃんの予定。
暇があれば秋子さん本もだそ～かな～
って感じです。お楽しみに！
以上、みたらし侯成でした☆

奥付

秋子さんと いっしょ

発行：みたらし倶楽部

発行者：みたらし侯成

発売日：2007.8.19

印刷所：大陽出版株式会社

Mail:m-kousei@rapid.ocn.ne.jp
HP:http://mitarashi-club.sakura.ne.jp/

秋子さんといっしょ

みたらし倶楽部
PRESENTS